

冊子枕そうしは

稲垣敏子

洋々と春はあけぼのつづみ浦今出る初日令和の鼓動

大晦日近くて遠き元旦は追われつ追いつ去年も今年も

白髭のはらはら薬翁丸内裏の犬の名前借りしか

いたどりを漢字で書けば虎杖いたどりとなんとをかしく読むにむつかし

夏座敷冊子枕は心地よく昼寝の夢に良墨香る

ぴかぴかの銚かなまりに盛るかき氷彩る蜜も五体に沁みる

いとをかし真白にけぶる烏瓜たますきの神秘の開花はつと息呑む

養虫が父よ父よと風の中母は何処となまはげが聞く

きつぱりと言ひ切る清女星すばる昂何たげがなんでもわれ流れ星

冬ざれのざんばらすずき人に見る枕草子しるし導とするわれ